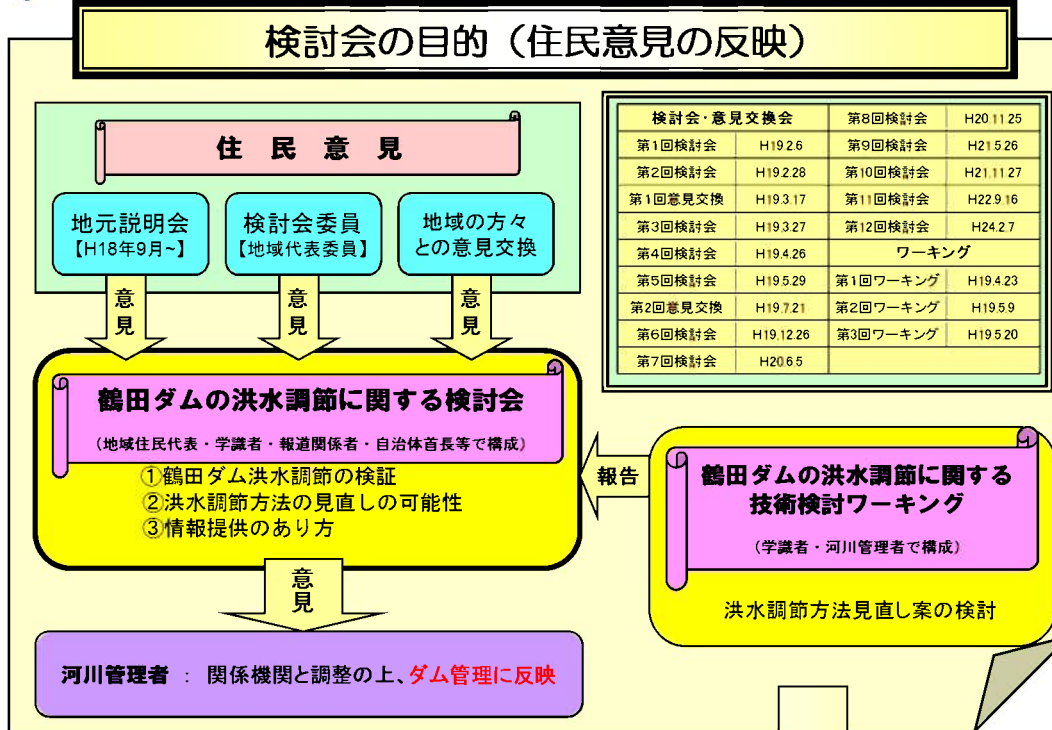


鶴田ダムの洪水調節に関する検討会概要

鶴田ダムの洪水調節に関する検討会 概要

検討会の目的（住民意見の反映）



第1回 検討会 (H19.2.6)



第6回 検討会 (H19.12.26)



第1回 意見交換 (H19.3.17)



第7回 検討会 (H20.6.5)



第8回 検討会 (H20.11.25)



第9回 検討会 (H21.5.26)

第2回 意見交換の様子
(H19.7.21 虎居地区公民館にて)



平成19年度出水期から実施

洪水調節

- ① 予備放流水位を貯水位130.0mまで低下させる**基準の見直し**
- ② 計画規模を超える洪水時の**操作方法の見直し**
- ③ 更なる**洪水調節容量の増量**（貯水位130m以下に低下させる）

情報提供

- ① 住民への**情報提供**
 - ・防災無線、ダム警報局、ダム情報表示板等の活用
- ② **マスコミとの連携**
 - ・テレビ画面にテロップ表示等
- ③ **防災意識の向上**に向けた取り組み
 - ・防災訓練及び日常の広報活動

鶴田ダムの洪水調節に関する検討会 概要

洪水調節方法の見直しについて

予備放流水位を標高130.0mまで低下させる基準の見直し

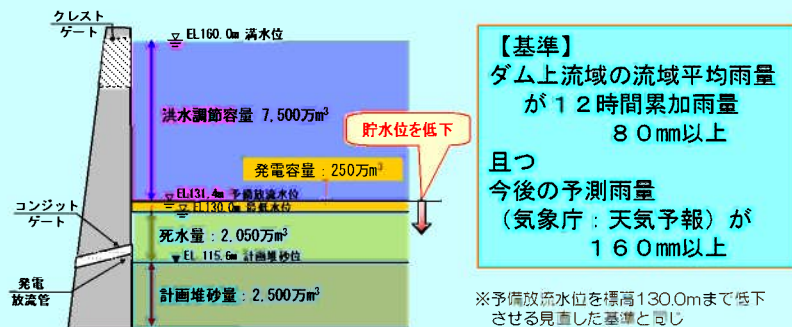
- 平成18年7月洪水のような大規模洪水が予想される場合、予備放流により貯水位を標高130.0mまで低下できるように基準を見直しました。

計画規模を超える洪水時の操作方法の見直し

- 操作開始水位を8割容量水位から7割容量水位へ、さらにダム流入量の最大発生後の放流量を逐次見直し、放流量の増加を穏やかにします。

更なる洪水調節容量の増量

- 大規模洪水が予測された（基準に該当）場合、更なる洪水調節容量を確保するため、発電放流を停止し貯水位を標高130.0m以下へ下げます。※ダム貯水位が130m以下になるとダムの放流量に限界（水圧が小さくなるため）がありますので、可能な限り低下させるよう努力はしますが、どこまで下げられるかはダムの流入量で決まります。



【効果】

- ① 最大放流量 **H18.7洪水に対して毎秒210m³低下**
- ② 計画規模を超える洪水調節操作時の放流量の勾配 **現行操作よりも緩やかにする**
- ③ 宮之城地点水位 **H18.7洪水に対して約20cm※水位を低下**

※：落下時間を30分とし、ダム放流量を流域流量へ加えて簡単に水位を算出。

情報提供のあり方について

住民への情報提供

- ①防災無線
 - 自治体からの情報（避難情報等）に加え、**河川やダムに関する情報を放送**します。
- ②ダム警報局
 - ダムの放流に関する警報に加え、**自治体からの情報（避難情報等）を放送**します。
 - ダムの放流に関する警報をこれまでの**2回から4回に増加**します。
- ③情報表示板
 - ダムの放流に関する情報表示に加え、**河川の水位情報や自治体からの情報（避難情報）を表示**します。

(情報表示板) ダム・河川・町の情報の表示例



スクロールによる表示

マスコミとの連携

- テレビ画面にテロップ表示等
- 情報提供に関する勉強会の実施



防災意識の向上に向けた取り組み

- 住民を含めた防災訓練および日常の広報活動の実施